

編集後記

年報『真宗文化』第三十三号をお届けいたします。執筆者のみなさま、ご支援助けくださったみなさまのご協力のおかげで、今年度も無事刊行することができました。厚く感謝申し上げます。

本号には、今年度の委嘱研究員である坪田さより・常塚勇哲、特別研究員である藤永伸・稲葉維摩の研究論文を掲載しております。ご覧いただけますと幸いです。

今年度の真宗文化研究所の活動について、少しご報告させていただきます。真宗文化研究所の行事である「聖蹟巡拝」は、今年度は宇治コースでした。多数の学生と教員の方々がご参加くださり、盛況に開催することができました。講師の東館紹見先生に、その由緒や当時の時代背景などを解説していただいた上で寺院を拝観すると、その風景をさらに色鮮やかに見ることが出来ます。東館先生、ご多忙中にもかかわらず、毎年お付き合いください、誠にありがとうございます。

また、当研究所主催で、前年度より、

法身国際瞑想センター栃木よりブラクルーバラッド・スネット先生を講師としてお招きし、「マインドフルネス講座」を開催しております。仏教が築いてきた伝統を知ること、そして自分の心に向き合い、心身を整えて日々を大切に生きていくことを目的にしております。来年度の予定は、決まり次第ホームページにてお知らせいたします。ご興味のある方おられましたら、当研究所にご連絡ください。

令和五年は、親鸞聖人が誕生して八十五年、浄土真宗が開かれて八百年を迎えることから「宗祖親鸞聖人御誕生八十五年・立教開宗八百年慶讃法要」が、真宗大谷派でもお勤めされました。その慶讃法要において、仏教精神に基づく光華女子学園の教育を知ってもらうために、光華女子学園も境内にブースを出展し、さまざまなイベントを行いました。今後も、報恩講などの法要の際には出展していきたいと思っております。東本願寺の法要において、光華女子学園のテントをお見かけになりましたら、ぜひお立ち寄りください。

今年度も、イスラエルとパレスチナの問題、年明け早々に起こった能登の地震など、胸を痛めるニュースが続きました。厳しい時代を生き抜くためにも、自分のなかにもある暴力性から目を逸らすことなく、想像力をもって物事を見ていく姿勢について、この学園で学生たちと共に学び、歩んでいかなければと思います。

この令和六年三月をもって、谷口事務職員が退職いたしました。新年度から新たな体制でスタートしたいと思います。引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。(FO)

真宗文化 第三十三号

令和六年三月一日 発行

京都光華女子大学

発行 真宗文化研究所

所長 小澤 千晶

京都市右京区西京極葛野町三八
電話 〇七五(三)五三八三(直)

E-mail shk@mail.kokac.ac.jp

URL <http://www.kokac.ac.jp>

印刷 協和印刷株式会社